令和3年第1回訓子府町議会臨時会会議録

○議事日程

令和3年4月15日（木曜日） 午前9時30分開会

- 第1 会議録署名議員の指名（2名）
- 第2 会期の決定
- 第3 行政報告
- 第4 議案第26号 令和3年度訓子府町一般会計補正予算（第1号）について

○出席議員（10名）

1番	須河	徹	君	2番	泉	愉	美	君			
3番	工藤	弘	喜	君	4番	谷	口	武	彦	君	
5番	河端	芳	恵	君	6番	西	森	信	夫	君	
7番	山田	日出	夫	君	8番	余	湖	龍	三	君	
9番	仁木	義	人	君	10番	西	山	由	美	子	君

○欠席議員（0名）

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町	長	菊池	一	春	君
副町	長	森谷	清	和	君
総務課	長	硯見	康	之	君
企画財政課	長	篠田	康	行	君
町民課長・元気なまちづくり推進室長		坂井	毅	史	君
福祉保健課	長	今田	朝	幸	君
福祉保健課課長補佐		関口	好	子	君
農林商工課	長	大里	孝	生	君
建設課長・上下水道課長		渡辺	克	人	君
会計管理者・危機管理監		伊田		彰	君
教育委員会教育長		林	秀	貴	君
管理課	長	高橋		治	君
子ども未来課	長	山本	正	徳	君
社会教育課長・図書館長		山田	洋	通	君
農業委員会事務局次長		今田	和	則	君
農業委員会会長		細川	孝	雄	君
監査委員		平塚	晴	康	君

○職務のため出席した事務局職員

議会事務局長	山	内	啓	伸	君
議会事務局係長	吉	村	章	子	君

◎開会の宣言

○議長（須河 徹君） 皆さま、おはようございます。

それでは、定刻になりました。

ただいまから、令和3年第1回訓子府町議会臨時会を開会いたします。

◎議会運営委員長の報告

○議長（須河 徹君） 西森議会運営委員長から本日の議会運営について報告をいただきます。

○議会運営委員長（西森信夫君） おはようございます。

それでは、ただいま議長からのご指示がありましたので、議会運営委員会からご報告を申し上げます。

本日の午前9時から議会運営委員会を開催いたしまして、令和3年第1回臨時町議会の運営について協議をいたしました。

本臨時会に町長から提出されている議案は1件であります。

なお、本臨時会については、町長からの行政報告がありますので、よろしく願いをいたします。

続きまして、会期につきましては、本日1日間といたします。

また、議事日程につきましては、お手元に配布の資料のとおりでありますので、ご覧になっていただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症対策としましては、本臨時会においても、マスクの着用、手指の消毒など、感染予防のため、引き続き、取り組むことといたしました。

以上のとおり議会運営委員会で決定いたしましたので、議員ならびに説明員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、議会運営委員会からの報告とさせていただきます。

○議長（須河 徹君） ご苦労さまでした。

◎開議の宣告

○議長（須河 徹君） 本日の出欠報告をいたします。

本日は全議員の出席であります。

なお、森下選挙管理委員会委員長から本日欠席する旨の報告がありました。

直ちに、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布してあるとおりであります。

◎諸般の報告

○議長（須河 徹君） 日程に入るに先立ち、事務局長に諸般の報告をさせます。

○議会事務局長（山内啓伸君） 本臨時会の説明員ならびに閉会中の動向につきましては、印刷の上、お手元に配布のとおりであります。

なお、本臨時会に町長から提出されております議件につきましては、議案が1件でございます。

以上でございます。

○議長（須河 徹君） 以上をもって、諸般の報告を終わります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（須河 徹君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は会議規則第125条の規定により議長において、6番、西森信夫君、7番、山田日出夫君を指名いたします。

◎会期の決定

○議長（須河 徹君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は、本日1日間といたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 異議なしと認めます。

よって、会期は1日間と決定しました。

◎行政報告

○議長（須河 徹君） 日程第3、菊池町長から行政報告がありますので、この際、発言を許します。

町長。

○町長（菊池一春君） おはようございます。

ただいま、議長からお許しをいただきましたので、行政報告の前に本臨時議会招集のご挨拶を申し上げます。

本日、第1回臨時町議会を招集申し上げましたところ全員のご出席をいただき、厚くお礼を申し上げるものでございます。

あらためて新型コロナウイルスはとどまることもなく、世界的に感染の拡大が今なお続いているところでございますし、変異のコロナも全国で大都市を中心にして際限なく発生している状況でございます。特に、大阪、東京、京都、神奈川等々につきましては、緊急事態宣言は解除されたものの第4波の恐れもあり危険地域ということでの指名をいただいたり、待つばかりという状況でございますので、3か月後のオリンピックも聖火リレーが取り止め、あるいは縮小等々の状況が続いておりますし、果たして本当に東京オリンピックが開催されるのかどうかということも危惧される状況でございます。

そんな中で私どもの町は柏丘や日出実践会で地鎮祭、春祭りが行われて、私も参加させていただきました。ずっと見てますと、もうマスクは当然、それから食事会は一切取り止めということがもうきっちりみんな守られている状況でございますから、そのような皆さん方の協力をいただきながら、私どもの町からは感染者が出ていないというよりも、本当にごくごくわずか厳しい状況にありながらも守られているという状況でございます。

今日の道新を見ますと北海道は各市町村の感染者数を公表するということが今月の末から始まるようでございますけれども、いずれにしても個人の権利やそういったことが守られるという前提において、私どもは粛々とこれらについても前へ進めていかなければなら

ないと考えているところでございます。

昨日、北見医師会の会長の吉田先生と短時間でございましたけれども、懇談する機会がございまして、現時点における私どものワクチン接種についての共通認識に立たれて確認させていただいたところでございます。4月26日に75歳以上の方に接種券の発送が始まります。同時にまたできるだけ早く医療従事者、あるいは消防職員等も含めた接種を保健所を中心としながら、一般の65歳以上といましようか75歳以上の方の接種の前に行っていただけるような調整を今進めようとしているところでございます。

現時点で、まだワクチンは届きませんが、確実な線で私どもが捉えていることで申しますと接種の開始は5月16日、17日、日、月になります。同時にまた、静寿園、はるる、これらについても接種を始めていきたいというふうに考えているところでございますし、23日にはワクチンがさらに追加して来るという状況でございますので、確実なところで、まず16日から75歳以上の方々に接種を開始するという状況で、これらについても、またコールセンターに申し込みいただいて割り振りをしていきながら進めていきたいというところでございます。

なかなか国としてもワクチンが滞りなく各市町村に配布されるというのが二転三転しているところでございまして、全国の自治体が確かな日程を決めることができないで今日に至った。しかし、状況としては、都市を中心として接種がいよいよ65歳以上の高齢者を中心としながら開始され、北海道では江別市がスタートを切ったというお話がございます。こんな状況でございますので、ご理解をいただきますとともに、確実に安定的なコロナワクチンの接種に向けて私どもも準備を進めているところでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

それでは、本臨時町議会に提案しております一般会計予算補正議案の概要を申し述べましてご理解を賜りたいと思っております。

まず、国の新型コロナウイルス感染防止策などのために組まれた、いわゆる15か月予算と呼ばれるもののうち、国の令和2年第3次補正予算を財源としたものを提案させていただくもので、新型コロナウイルスの影響から困難な学生生活を強いられている町内出身の学生のための学生応援ふるさと小包事業、さらに同じく、大きな影響を受けている子育て世帯への経済支援のための子育て世帯生活支援給付金、さらに地域経済が低迷したことにより影響を受けた事業者の事業継続を支援する事業継続応援補助金、そのほか、町内福祉施設の職員や入居者などへのPCR検査キットの配布やこども園の消毒業務など提案させていただいております。また、自治総合センターのコミュニティ助成事業が採択となりまして、東町町内会のテーブル等の購入へ補助金、国民年金システムの改修など、歳入歳出それぞれ4,219万4千円を追加提案をさせていただいております。

以上、詳細につきましては、担当課長等から説明をしていただきますので、ご審議を賜りますようよろしくお願いを申し上げます、第1回臨時町議会招集のご挨拶とさせていただきます。

引き続き、お手元に配布させていただいております行政報告を申し上げます。

まず、1点目です。

町内で発生した死亡交通事故についてであります。

高規格幹線道路十勝オホーツク自動車道の訓子府インターチェンジ付近の町道緑丘協成

線におきまして、協成方面から市街地方面へ走行していた軽乗用自動車は路外に逸脱し、運転していた陸別町の75歳の男性が亡くなりました。男性は車外で仰向けに倒れており目立った外傷はなく、解剖の結果、ろっ骨が折れており、それに伴う呼吸障害による交通事故死と断定されました。

この事故によりまして亡くなられた男性のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、この痛ましい死亡交通事故の発生によって平成24年9月15日から続いていました「交通事故死ゼロの日」は3, 113日でストップしましたが「交通事故死ゼロの日継続」の精神は途切れることなく、この日を契機に全町民とともに新たな気持ちで死亡交通事故の根絶に向けて取り組んでまいる決意でございます。

今後におきましても、警察をはじめ関係機関とも連携して交通安全運動を推進してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

以上、町内で発生した死亡交通事故についての行政報告とさせていただきます。

次に、駒里地区で発生した林野火災について、ご報告申し上げます。

4月2日午後1時48分ごろ、民有林において林野火災が発生し、消防団員、消防職員合わせて66名、置戸支署からの応援も含め消防車11台により消火活動が行われ、午後3時44分に鎮火し、約2時間に及ぶ延焼を食い止めることができました。

林野火災の消火活動にあたり、消防団員、消防職員をはじめ、オホーツク総合振興局東部森林室や新生紀森林組合など関係機関にご協力をいただき、現場で迅速な対応をいただいたことに心から感謝を申し上げます。

出火原因はごみ焼きであり、被災状況としては火災における焼失面積が2.97haに及びましたが、幸いにも人的被害および建物被害はありませんでした。

また、4月11日午前10時25分ごろ、本町との境界の北見市豊地付近で山火が発生し、防災ヘリからの空中消火活動も行われ15時過ぎに火災を鎮圧。焼失面積は約10haと北見市から報告を受けているところでございます。

春先は火災が最も起こりやすい時期で、訓子府町林野火災予消防対策要綱では、4月1日から6月30日までを林野火災危険期間として原則火入れを禁止しており、4月21日から5月31日までを林野火災予防強調期間として設定しているところです。

今後におきましても、消防と連携し林野火災予防に向けた広報活動を一層強化し、悲惨な火災を起こさないよう努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思っております。

以上、駒里地区で発生した林野火災についての行政報告とさせていただきます。

次に、日出地区で発生した建物火災について、ご報告申し上げます。

4月10日午後9時6分ごろ、日出地区において建物火災が発生し、消防団員、北見本署からの応援も含めた消防職員合わせて80名、消防車等12台による消火活動が行われ、午前0時50分に鎮火しました。一般住宅1棟を全焼しましたが、付近への延焼はございませんでした。

居住者1名が北見市内の病院へ搬送されましたが、幸いけが等はございませんでした。

建物火災の消火活動にあたり、消防団員、消防職員、関係機関の現場における迅速な対応に再度、心から感謝を申し上げます。

出火原因は、台所で調理後食事をとろうとしたところ、ガスコンロ付近から炎が上がり、

初期消火を試みるも失敗、周囲に燃え広がり全焼となったものであります。被災状況としては木造2階建ての一般住宅の1階58.72㎡、2階24.30㎡、合わせて83.02㎡が全焼となったものであります。

先ほどの林野火災の報告でも申し上げましたが、今後も消防との緊密な連携により、悲惨な火災を起こさないよう努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上、日出地区で発生した建物火災についての行政報告とさせていただきます。

○議長（須河 徹君） ただいまの行政報告について、若干の時間、質疑することを許します。質疑は1人2回に制限いたします。

ご質疑ございませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 以上をもって、行政報告を終了いたします。

◎議案第26号

○議長（須河 徹君） 日程第4、議案第26号 令和3年度訓子府町一般会計補正予算（第1号）についてを議題といたします。

提出者からの提案理由の説明を求めます。議案書1ページです。

企画財政課長。

○企画財政課長（篠田康行君） 議案書の1ページをお開きください。

議案第26号 令和3年度訓子府町一般会計補正予算（第1号）の説明を申し上げます。

まず、第1条では、歳入歳出それぞれ4,219万4千円を計上し、予算総額を歳入歳出それぞれ51億239万4千円とするものでございます。

第2項にありますように、この補正の款項の区分ごとの金額等につきましては、次のページの第1表のとおりであります。これについてはご覧いただくこととし、この後3ページ以降の事項別明細書により説明をさせていただきます。

それでは早速、事項別明細書の説明をさせていただきますが、歳出を中心に行い、その後、歳入の説明をしたいと思います。

まず4ページの歳出でございます。

2款、1項、8目、企画費の事業区分、企画一般事業の需用費の消耗品費では、町外に暮らす学生に対して生活の支援等を目的に、1人1万円分のふるさとの特産品を送付することから、90名分の経費として91万7千円を追加。

役務費の通信運搬費では、特産品の送料として14万5千円の計上。

まちづくり推進事業の負担金、補助及び交付金では、財団法人自治総合センターが実施しているコミュニティ助成事業補助金に地域の会館のテーブルなどの備品整備に対する事業が該当したことから110万円の計上。

その下の表の3款、1項、4目、国民年金事業費の事業区分、国民年金事務事業の委託料では、令和2年度の税制改正により、ひとり親控除が創設され、特別寡婦が廃止される等、寡婦控除の見直しが行われたことに伴い、国民年金システムの改修が必要になったことにより32万5千円の計上。

次のページの3款、2項、1目、児童福祉総務費の事業区分、子育て支援事業では、新

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、家庭での経済的な負担が増している子育て世帯への支援を行うため「子育て世帯生活支援給付金」を支給することとし、その事務の補助をする会計年度任用職員の報酬として10万8千円の計上。

需用費の印刷製本費では、申請用封筒の印刷費として1万8千円の計上。

役務費の通信運搬費では、申請事務にかかる郵便料として9万9千円の計上。

負担金、補助及び交付金では、子育て世帯生活支援給付金として18歳未満の子どもを持つ世帯を対象に、子ども1人につき1万円を支給することとし、700人分を見込み700万円の計上。

その下の表の4款、1項、2目、予防費の感染症予防対策事業の需用費の消耗品では、新型コロナワクチン集団接種に従事する職員への検査や検査を希望する町内福祉施設等を使用するための新型コロナウイルスPCR検査キットの購入費として275万円の計上。

次のページの7款、1項、2目、商工業振興費の商工業振興対策一般事業では、新型コロナウイルス感染症予防対策の長期化により、地域経済が低迷しているため、影響を大きく受けた事業者の事業継続を目的に事業継続応援補助を実施することとし、役務費の手数料では、制度周知用の折り込みの手数料として1万7千円の計上。

負担金、補助及び交付金では、事業継続応援補助金として法人および個人の事業者に対して、令和3年1月から3月までの前年同期の売上金額の減少率に応じて補助するため2,950万円の計上。

その下の10款、4項、1目、こども園費の事業区分、こども園維持管理事業の委託料の施設等消毒業務では、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、現在職員が行っている消毒作業のうち、こども園施設内の供用部分の定期消毒を業者に委託するため21万5千円の計上。

7ページの給与費明細書につきましては、今回の会計年度任用職員の補正に伴うものでございますのでご覧ください。

次に、3ページに戻りまして、歳入になります。

一番上の表の14款、2項、1目、総務費国庫補助金では、町独自の新型コロナウイルス対策事業の財源としまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金4,076万9千円の計上。

その下の表の14款、3項、2目、民生費委託金では、国民年金システム改修に対する事務費委託金として32万5千円の追加。

その下の表の20款、5項、5目、雑入では、コミュニティ助成事業助成金として110万円の計上となっております。

以上、令和3年度訓子府町一般会計補正予算（第1号）の内容について、説明をさせていただきました。ご審議の上、ご決定をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（須河 徹君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。1人3回まで質疑を行えます。

ご質疑ありませんか。

5番、河端議員。

○5番（河端芳惠君） 5番、河端です。4ページの企画一般事業の中の事業費でふるさと応援小包、これ6月にもありましたが、これは第2弾ということですか。また、新しく

進学されたり地元から離れた人もいるということで、また出たのかもしれませんが、第2弾なのかということ。

それと5ページの民生費の児童福祉総務費の一番下、負担金、補助及び交付金、子育て世帯生活支援給付金、これは18歳未満ということですが、これ収入要件とかなくて、申請に基づいて交付するのか、その辺どういう手段で交付するのか伺います。

以上です。

○議長（須河 徹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（篠田康行君） 1点目のですね、4ページ、企画費の企画一般事業のですね、ふるさとの学生応援のご質問で第2弾であるかというご質問でしたけれども、第2弾といいますか、昨年実施した事業を今年も同じ対象者で実施しようというものでございまして、前は大体5千円、おおむね5千円程度の内容だったんですが、今回はですね1万円に額を増やしまして送ろうとしているものでございます。

以上です。

○議長（須河 徹君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（山本正徳君） ただいま、河端議員さんから質問のありました5ページの民生費の子育て支援事業、子育て世帯生活支援給付金の内容に収入要件等、手続き等の手段の方法についてのご質問がありました。子育て世帯生活支援給付金といたしまして、これにつきまして、対象につきましては、令和3年4月1日時点で18歳未満の子どもがいる世帯、住所要件といたしまして、令和3年4月14日現在、訓子府町に住所を有する方、それと令和3年度中にお子さんが生まれた方を対象としております。収入要件等は設けておりません。訓子府の町民というかたちの要件となります。支給金額につきましては、対象の子ども1人につき1万円、申請期間につきましては、令和3年4月20日から令和3年5月31日までとしております。なお、3年度中に出生がされた方につきましては、随時受付というかたちの手続きを進めております。申請につきましては、口座の振込となりますので、通帳等のコピーと口座要件等を添付したかたちの申請方式とさせていただきます。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

3番、工藤弘喜君。

○3番（工藤弘喜君） 3番、工藤です。それでは、とりあえず1点、質問させていただきます。ページ数でいきますと6ページですね、商工費の関係です。6ページの商工費の中の商工業振興対策一般事業ということで今回、いわゆる経営に非常に困難をきたしているところに支援ということで予算されておりますけれども、これにつきましては、全員協議会というか前段で行われた協議会の中でも説明があったんですが、一つはちょっと自分なりに本当にこれでいいのかなと思う点の一つ、二つありましたので質問したいと思います。

一つは、前の説明の中では、今回もありましたけれども、対前年の1月から3月の減少割合に応じて、それでもって今回の支給額を決定するというふうな中身になっていたかと思うんですが、果たして対前年比の1月から3月比でとした、そのことがその根拠といたしますか、理由はどこにあったのかなということが1点です。対前年比ということの根拠で

す。いわゆるR2年1月から3月ということだと思っております、その理由を一つ聞かせていただきたいと思っております。

もう1点は、私自身が、これは考え方も入るんですが、本当にこのコロナの影響で支援が必要とされる業者さんといいますか、個人、法人も含めた中で、本当にそれで支援の目的が達成されるというか道理に合った支援の中身になっていくのかどうか、本来であれば、対前年ではなくて、コロナ以前の状況と対比をすることというのが本来のあり方でないかなというふうに思うんですが、対前年ということになれば、確かにこれはちょっと質問長くなっちゃうんですが、前回、町独自で昨年、経営継続のための支援をしております。その中で出た資料から見ても、やはり何らかの影響があったというのは間違いのない事実でありますから、その影響を受けた時点の数字を基にするのか、まったくそれを加味しない、いわゆるコロナが影響がない対前々年、少なくとも通常年というか、対前々年の数字が本来ではないかなというふうに思いますので、その辺の考え方について、まずお聞きしたいと思っております。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 6ページの商工業振興対策一般事業の事業継続応援補助金のご質問かと思っております。1点目と2点目で同じ内容というか、ということでもよろしいですかね。まず1月から3月ということなんですけども、今年、令和3年度なんですけども、できるだけ直近の状況を見ようということでの、まず把握するということでの令和3年度の1月から3月。それから対前年比、令和2年の1月から3月からということでの対比なんですけども、コロナの感染が広がってきた部分については、2月28日の道の緊急事態宣言が出まして、3月以降に通常であれば歓送迎会ですとか、そういうところでの団体のお客さん、飲食でいけばですけども大きく影響を受けているということだと思っておりますけども、1月、2月でいけば、感染は出てたんですけども、ここまで広がってなかったんで、影響は出てたかと思うんですけども、大きな影響は出てなかったということ。それから飲食業以外でいけば、少しか感染が影響を受けているのが後ろの方にずれているのかなということでの考えでございます。昨年、令和2年なんですけども、補助金、例えば融資の保証料の補助金ですとか、あと飲食業の補助は2回やっています。それから業種拡大ということで補助、一定程度の補助、それから間接的にでありますけども、商品券のプレミアム商品券の発行やまちづくり商品券の発行を行って、一定程度の支援を行っております。それから国、道においても持続化給付金等で支援行っていると思っておりますので、その辺も加味して昨年、令和2年の1月から3月の売り上げで比較するというところで決めさせていただきました。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

3番、工藤弘喜君。

○3番（工藤弘喜君） ちょっと何回かに、同じ項目で再質問というかたちになりますけども、この今回のこの支援というのは、やはり良かったなというふうに思っているのはまた事実なんです。これが本当に有効活用というか、待ってたものだとは思いますが、業者の方たちにしてもね。だからそういう意味では非常に意味ある予算措置だと思いますし、良かったなと思うんですが、もう一つは、やっぱり一番考えなきゃいけないもう1点として、例えば、昨年の、今るる説明され、いわゆるこれだけじゃなくて、その以前から商品

券の支援だとか、道なり国の支援等々もあったということも含めて考えて、総合的に考えてということも含めて、それはわかるんですけども、本町独自にこういう支援を、これは国の予算がもとなんですけれども、やる中で、昨年、先ほども言いましたけれども、経営継続の関係で実質出てる数字から見ましても、確かに2月、1月はなかったですね、ただ、2月、3月だけ見てもコロナの影響によっての減収というのが、やはり2月でいくと個人、法人合わせて5件、そして減少月、3月をみると15件があると。現実にそういった業種の方々がやっぱりコロナの影響があったというふうに認めて、そしてそれを基に昨年は支援をいただいたと。そういうことから考えても、減少したということを基準に、減少をして支援をしていただいたということを基準にすることが、今回の支援をさらにこう受ける人たちというか、業種の人たちにしては、本当にこうすんなり、本当の意味での歓迎というかになるのかなというふうな思いなんです。仮にこれが対前年にしてみても、20%減収とか30%減収、40という、そういう数字のくくりありますから、それはその中で整理できることというのは結構あると思うんですが、大前提として、その基準年をどうするかということの持つ意味というのをやっぱりどこかちょっとこう考えた方が、そういうことがやっぱり困っている業種の人たちに寄り添うという意味合いにもならないのかなというふうに思って質問しているようなところなんです。もう一度その辺についての考え方をちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 工藤議員おっしゃるのはすごくわかります。ただ、前回も補助等もやって今回あらためて、今の方が逆に落ちているとかという方も結構いらっしゃるかとは思って、その辺も含めて、昨年の1月から3月と今年の1月から3月の比較して減少しているところ。それから前回の業種拡大でもそうですけども、20%までこう下げているというか、減少幅が20%以上超えていればということでの対象にしていますので、その辺については、できるだけこう拾いやすく。ただ、いろいろこう対策して売り上げを逆にこう上げている努力している方も中にもいらっしゃいます。その辺も考慮しながらの前年の比較ということでご理解いただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

7番、山田日出夫君。

○7番（山田日出夫君） 7番、山田です。5ページ、4、1、2の検査キットの関係でお聞きします。この内容については全然反対する何ものもないと思いますけども、進めたいと思うんですけども、これの検討に至る、この数字を275万円に、または対象人数を対象を絞り込む過程のことについてちょっとお伺いをしたいと思いますけども、確かに従事する人が感染してないということを早めに把握することは、広げないという意味で大変納得できることであります。逆を言うと、一般町民が熱出したりですね、病院にかかる段階になったら、これは病院に行ったら、そのルートにのってPCR検査されると思います。そこまでに至らない町民いると思うんですけども。例えば、やむを得ず札幌に出張した。仕事上ですね。実は感染しているかもしれないんですけども、誰もわかりませんよね。発熱しない人もいる。のどの違和感出ない人もいる。いろいろたくさんいます。もってても、感染しても。そういう心配がある人が周りに迷惑をかけたくないとか、町に迷惑をかけたくないということで、PCR検査を受けたいという、受けた方が良いと科学的

に見てもいいような状況の人を町民の対象をですね、なぜ、したのかもしれませんが。その辺の経過をちょっとお聞きしたいと思います。ということは、早めに見つけて対応できるという点で一部の必要だと思われる町民もなぜ対象にしなかったかをお聞きしたいと思います。

○議長（須河 徹君） 総務課長。

○総務課長（硯見康之君） 議案書5ページの4款、1項、2目、予防費の感染症予防対策事業の消耗品のPCR検査のキットの中身の関係でのご質問かと思います。このPCR検査キットの積算にあたっては、まず最初に説明したとおり福祉施設、全職員と居住者で232名いらっしゃいます。その人たちが毎月受けて3回ということで696回。すいません、その前に、このPCR検査キットは100個入り1セットで10セット、千個買います。まず福祉施設で232名全体でいらっしゃいますので4施設で。ですの696キットが必要になります。ここで7セットここで必要になります。それとワクチンを接種する事業に携わる職員が事前に調査するというので100名分1セット。これで8セットでございます。残りの2セットにつきましては、万が一、そのようなことがあった場合、例えば町内の施設でそういう感染者が発生したとか、そういう非常時に備えて2セット分備蓄するというような考えでおりますので、もし、そういうことがあった場合、そういうご相談があった場合はそちらの方で対応できるようにということで2セット備蓄ということで考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○議長（須河 徹君） 7番、山田日出夫君。

○7番（山田日出夫君） 聞いた、ここにいる人はわかります。2セットで足りるのかわかりませんが、とりあえず、お金さえあれば、たぶん入手できると思いますので、そういう思想で用意された対策な訳ですから、町民の皆さんにそのことを周知していただきたい。全然わかりませんからね。そして、非常にいいことだと思います。よくやったなと思って、僕も今、感心して聞いてましたけども、周知をどのようにするのかを聞きたいのが一つ。

それと先ほど工藤議員が質問されたことについて、ちょっと角度変えてお聞きしたいと思います。公民館の舞台をちょっと想像していただきたいんですけども、あの広い平面が通常年の経営の状況です。そこから階段両側にありますけども、どこでもいいんですけど、階段を使ってこう経営が落ちてくる訳ですよ、1段落ちた、2段目落ちた、3段目落ちたと。経営ですよ。2段目か3段目かは置いといて、今が2段目としましょう。去年の1月から3月が1段降りた状態だとします。そうすると1段降りたこと、今の状況の2段の差を見ることになりますよねこれ。ざっくり言うのですよ。でも広い公民館の舞台の毎年の経営状況、ここと1段目のギャップはどこ行っちゃうのかなと。やっぱり舞台と比べるのが本当じゃないですかね。今この舞台と1段目降りた間で種々のことをやったという説明ありましたが、それはその時の対応であって、今は2段落ちているんだから、平年の舞台との比較のこのギャップののこに対して比較すべきでないかと思いますが、これはどう考えてもこっちの方が正しいと私は、工藤さんもそうかもしれませんが。この2点、もう一度お願いします。

○議長（須河 徹君） 総務課長。

○総務課長（硯見康之君） 先ほどのPCRキットの配布の関係で周知につきましては、

次の広報等でしたいと思っております。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 6ページの事業応援補助金の関係の先ほど工藤議員からもあった内容とほぼ同じかと思えますけども、確かに昨年3月中以降でしたら影響を受けているかと思えます。ただ、その影響を受けているけども、町で昨年、1年間、万全ではないかもしれないですけども支援をさせていただいていると。それから経営の努力をして売り上げを何とかしようということをつなげてる方で対象にならない方も中には出てきます。その辺も考えて、例えば1月とか2月でいけば、飲食以外でいけば、影響は3月以降にずれているかと思えます。その辺も考慮しての昨年の令和2年の1月から3月までと今年の1月から3月までの比較ということで、先ほどと同じ回答かと思えますけども、それでの比較でさせていただきたいということでございます。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

8番、余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 8番、余湖です。2点ばかりお願いします。

まず、5ページ。5ページの児童福祉総務費の中の先ほども質問出てましたが、負担金、補助及び交付金の700万ということで、18歳未満の方に1人1万円と。条件なしで1万円ということで提案されてますけども、これについては漠然とした考え方をお聞きしたいんですけど、この1万円の根拠というのはどこなのかなと。私はこれ1万円、せっかく配るんでしたら1万は少ないんじゃないかと。国が去年配ったのも1人あたり10万円とか配ってますよね。そういうふうに10万円配れとは言いませんけども、今、町がこういう国のお金を使って本当に子育て世帯を助きたい協力したいと思うんでしたら、やはり1人最低3万円ぐらいの補助金というか援助をするべきじゃないかなと。1人家庭でしたら1人の子どもで1人3万円、3人いれば9万円という、やはりそれぐらいの援助というのは必要じゃないかと思えます。これこの1万円と出てきたことの根拠を知りたいということと、やはりこれはもっと増額するべきじゃないかと。これは考え方の問題でしょうから、行政の方の考え方を変えていただきたいなどと思っております。

続きまして、次のページ、6ページの先ほどから今、工藤さん、山田さんと質問されます話なんですけども、これについては、私もあんまり当事者になるんで、あまり言いたくはなかったんですけども、現実的なことを基にお話を聞かせていただきたいんですけども、先ほど去年の1月から3月までを基準にするというようなことでした。これがどうしてかという理由の中で、その推移を見たいんだというような話、1月から3月までの比較、今年との推移を見たいというようなこともありましたけども、これについては、それを比較を見たい、数字を見たいというんでしたら、それはそれでいいと思うんですけども、やはりこういうものに関しては、結論から言いますと、やはり前々年度、平年度との比較で今の現状を把握した中でこういう補助金というのは出してほしいなどと思えます。出すべきじゃないかと思えます。なぜならば、確かに去年については、1月はそうでもない、2月は後半、3月ということで、そういうぐらいの数字の変換になりますから、確かに普通にいけば今年の1月から3月までの比較でいけば多少20とかある業種もあるのかなと思えますけども、やはり30、40というのは、なかなか引っかけこないんじゃないかと思えます。ましてやこれ3か月平均でいく数字なんだろうから、これ中のひと月だけで

良いよということになればまた変わって3月だけを対象にすれば、かなりの40という数字が出てくると思うんですけども、ですからこういうものに関して、もちろん去年、町が何回か補助して応援していただいたのは確かですけども、やはり今、応援するんでしたら、やはりたくさんの方が対象になれるように、本当に応援できるようなものにこれはせっかくだからやるべきだと。そうならばやはりそういう比較に対して昨年ではなく、一昨年の方が平年月と比較してもらおうという方がいいんじゃないかと思います。それともう一つ言えば、先ほど室長も言っていましたけども、今年というか後半から今年に関して努力して売上げを伸ばそうと何かいろいろな方法を考えてやっている方もいます。ですからそういう方は頑張っただけに、そういう対象にならないんじゃないかと。なる部分が少なくなるのかなということも考えちゃいますんで、やはりそういう意味でいくと対象月日というのは変えるべきじゃないかと思います。

以上です。お願いします。

○議長（須河 徹君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（山本正徳君） ただいま、5ページの民生費、子育て世帯生活支援給付金の給付額の関係の部分でご質問がありました。なぜ1万円か、1万円の根拠はということのご質問でしたが、直近で町独自の1月に給付しています冬季生活応援事業、これは非課税世帯に対して1万5千円を出している。また、国の施策といたしまして、低所得の子育て世帯に対して、子ども1人当たり5万円の支給というのも現在予定されているという。それと今回、給付対象につきましては、18歳未満全員を対象にしていると。これらの状況、または財政状況も含めた中で総合的に検討いたしまして1万円とさせてもらっているものでございます。

以上です。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 6ページの事業継続応援補助金のご質問かと思えます。まず、私ちょっと比較を見たいということでお話させていただいたんですけど、それはあくまでも情報として必要だということなんで、補助金を出す上では、もちろん必要なんですけど、そのためにやる訳ではないというのはちょっとご理解いただきたいと思えます。それから工藤議員と山田議員からもご質問あったとおりの前々年度の比較で影響を受けていないのを対象にした方がいいんじゃないかということですけども、そういう見方もあるんですけども、先ほどから答弁していますとおり一定の補助もさせていただいている中ですので。それから前回の業種拡大でいけば、ひと月だけでの比較ということなんですけども、それでいくと翌月、翌月と売上げ上がっても補助金が出てしまうというか、その時落ちているからいいんですけども、その辺も含めて今回3か月ということでの比較をさせていただきたいということでございます。

○議長（須河 徹君） 8番、余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 8番、余湖です。まず最初の方の1万円ずつ子どものいる家庭にという話で、ほかのいろいろな条件というか今のお話の中では低所得者にも配っているし、これから国が5万円配る予定もあるんですか、そうなのかなと思いますけども、それはそれとしまして、やはり町が今やるに当たっては、やはり1万円という数字の中で、財政的な問題があるというような話もしましたが、それもやっぱりちょっと違うんじゃないか

と。もちろんいろんな意味で9千万という交付税を使う中で、いろいろな目的あるんだと思いますが、やはり子どもたちに対して総額700万というのは、もっと使ってもいいんじゃないかと思うんで、財政的問題はもっと考えていただきたいなと思います。国がこれからやることはあるのかもしれませんが、それはまたちょっと違うと思います。やはり今、町がやるべきは1万円という数字じゃなくて、もう少し、3万円にしても2,100万円ですから、これはね、やはり使うべきじゃないかと思うんで、よろしく考えてご返答いただきたいと思います。

それともう一つ、今、室長の返答にありますけど、やはり一定の補助をしていると。それはわかります。確かに。去年度については、確かに町からもたくさんいただきやっていますが、現実というのは、そういう意味で、去年1年間の売り上げを調べて現実を把握するとか、そういうことも必要じゃないかと思います。そういうものを見れば、本当に、ましてや今年になっての1月から3月までの業種によって違いますけども、本当にきつところはきついですよ。そういう現状を見ますと、やはり去年頑張って補助してくれているから、それで何とかしてるんだからというような言い方をするんじゃないかと、少なくとも助けるために、今年度ももらいやすい環境の中の補助の設定をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（須河 徹君） 教育長。

○教育長（林 秀貴君） 子育て世帯生活支援給付金の1万円のお話ですけど、金額の多い少ないはいろいろあると思うんですけど、今回交付金を給付するにあたっては、12月に町が行った子育て世帯アンケートの、その中で子育て世帯の中で給付を望む声が一番多かったということと、その中で一番の狙いは、子育て世帯における影響がどれほどあったということを鑑みながら今回1万円という給付額を決定させていただいたものでございますので、まずは1万円を給付するというご理解いただきたいということと、今後、状況に応じては、また第2弾、第3弾ということも検討していくことになると思いますので、この辺をご理解いただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 引き続き、事業継続応援補助金のことでありますが、おっしゃることはもちろんわかりますし、大変厳しい状況だということもあるし、あと補助金がこの出しているからといって、決してそれで万全だとは思っておりません。ただ、先ほどもお話しさせていただいたんですけど、事業やってて、コロナがこうずっと続いてて、経営するためには何かしなきゃならないということで頑張ってやって、例えば北海道スタイルもきちんと守っていただいている事業者さんいっぱいいらっしゃいます。そういうところで例えば売り上げが20%いかなかったから出なかった。それは努力してやっている部分なんですけども、じゃあ逆に何も実践してないところで売り上げ落ちましたということについては、やはりそういう努力もしながらの、極端な話ですけども、ということですので、それから先ほどからもお話ししてもらっているとおり、1月、2月、2月は後半はちょっと影響出てるのかもしれないですけども、業種によっては出てないところもございますし、その辺も含めての昨年同期との比較ということで、何回も答弁してはいますが、ということでの考えでございます。

○議長（須河 徹君） 8番、余湖龍三君。3回目です。

○8番（余湖龍三君） もう返答ありませんけども、ぜひ、現実というのは、そういうものだとということで、これを施行する前に、今の二つの話ともに検討を願いたいと思います。

以上です。

○議長（須河 徹君） ほかに、ご質疑ありませんか。

10番、西山由美子君。

○10番（西山由美子君） 10番、西山です。今、幾人かの議員の方の質問に対して同感する部分もありますが、全体の交付金は9,700万ほどありますが、今回4千万ということで、残りの5千万をどのように今後町民のために使うのか、その辺わかる限りでお願いしたいと思います。

○議長（須河 徹君） 副町長。

○副町長（森谷清和君） 今回、4月、今日の議会ではですね、当面、緊急的と言いますか急ぐ分だけ提案させていただいたということにしております。

それから、この後ですね、5月にもちょっと臨時会の方、開催予定になっておりまして、その中でですね、主に感染防止対策といいますか、学校ですとか、それから公共施設の感染防止対策、それから、今、オンラインでの会議が進んでいますんで、その部分に若干整備をしたいなというふうに考えております。

それからですね、このほかにも経済の活性化といいますか、その部分で、例えばプレミアム商品券の発行ですとか、そういったものについては、この後の感染状況等も見据えながらですね、その辺、企画していきたいなというふうに思っております。早ければ6月の定例会でも、その辺出せるか、それとももう少し時期をずらして経済対策をやった方が効果的なのか、その辺も見極めながら提案させていただきたいなというふうに考えております。

まずは第1弾ということで、今回4,076万9千円ですか、この分について提案させていただいたということですので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

6番、西森信夫君。

○6番（西森信夫君） 6番、西森です。1点だけ質問したいと思います。5ページの4款、1項、2目の予防費の中で、先ほど質問がありましたが、この感染症予防対策事業のワクチン接種に対するPCR検査キットを購入するという非常にこれはいいことだと思うんですが、これ一斉に検査をするのか、随時やっていくのか、その間に仮におかしい人が出て検査している間に感染が広がる可能性もあるということで、検査結果はこれ保健所までいくのか、どういう検査、その検査結果に基づいて、どういう対応をとるのか聞きたいのと、それから町民の中から自分らも検査したいという要望が出た場合の対処法もお尋ねしたいと思います。

○議長（須河 徹君） 総務課長。

○総務課長（硯見康之君） まず、PCR検査のキットなんですけれども、まずこれ市販のPCR検査キットになりますので、公に陽性というふうに判定されるのは保健所におけるPCR検査のみでございますので、万が一、このPCR検査で判定が陽性が疑いが強いというような判定が出たら医療機関の方にまず促すことになります。医療機関の方でこのようになったんでどうしたらいいかということで保健所の方につないでいただくというよ

うな流れになろうかと思っております。

まだちょっと細部はつめておりませんが、町民の方がもしということになった場合、おのおの個人に対応というのがなかなか難しいかもしれませんので、相談があった件に対してどのような状況かというのをまず判断させていただいて、それで備蓄品の方をというような感じになるかと思えます。基本的には公共施設等で発生したのも考えておりましたので、その中でどのように活用するかというのを考えていきたいと思っております。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

4番、谷口武彦君。

○4番（谷口武彦君） 4番、谷口です。6ページの教育費、こども園費ですが、今回1日1時間業者の方が施設の消毒をされるということですが、こども園は消毒されるということになったんですが、子育て支援センターや児童館などはどのような対応をするのか、わかればお聞かせください。

○議長（須河 徹君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（山本正徳君） 6ページ、教育費のこども園維持管理事業の中の施設等消毒業務の関係で、こども園の消毒は今回、手当てされるかたちになるが、支援センターほか施設についての対応はということのご質問ですけれども、支援センターと児童センターにつきましても、通常の清掃管理委託的なかたちのものが入っております。その中の清掃の中で消毒だとか、アルコールだとか、そういった部分での部分消毒、通常の清掃時間内での消毒だとかのかたちでの対応および児童センター、支援センターにつきましては、四六時中子どもがいるような状況でなくて、いない時間帯もあります。そういった中で先生方での消毒だとかで対応させてもらっております。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 質疑がないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

これより討論を行います。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

討論ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

討論ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。

これより、議案第26号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎閉会の宣言

○議長（須河 徹君） 以上をもって、本臨時会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

これにて、令和3年第1回訓子府町議会臨時会を閉会いたします。

本日は大変ご苦労さまでした。

閉会 午前10時38分